

構造改革の 最後の仕上げに向かって

10月12日、総理大臣官邸で「月例経済報告等に関する関係閣僚会議」が開かれ、「構造改革の加速・拡大」が確認された。

また13日には「経済財政諮問会議」が開催され、小泉総理から改革の最後の仕上げに向けた決意が示された。

そして参議院本会議で郵政民営化法案が可決された14日、小泉総理はラジオ番組の収録に臨んで、「改革の本丸」と位置づけた同法案成立への思いを率直に語った。

10月12日、総理大臣官邸で月例経済報告等に関する関係閣僚会議が開催された。今回の会議では「景気は緩やかに回復している」とのわが国経済の基調判断が維持された。また、政策態度について「政府は「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2005」に基づき、構造改革を加速・拡大する」などとされた。

また13日、総理大臣官邸で第21回経済財政諮問会議が開催され、政策金融改革と、歳出・歳入一体改革についての議論が行われた。小泉総理は会議の締めくくりに「政策金融改革、歳出・歳入一体改革は、最後の1年、最後の仕上げという重要なものなのでよろしくお願いま



10月14日、「小泉総理、ラジオで語る」の収録で郵政民営化法案の成立について語る小泉総理。



10月12日、月例経済報告等に関する関係閣僚会議に出席した小泉総理。



10月13日、経済財政諮問会議に出席した小泉総理。(写真提供・時事)

す。もうすぐ最後の予算編成がある。歳出削減が重要であり、そうした観点からしっかりと取り組んで欲しい」と述べた。

さらに14日、小泉総理は国会での郵政民営化法案可決の後、総理大臣官邸で約3カ月ぶりに「小泉総理、ラジオで語る」の収録を行った。小泉総理は同法案の成立について「ありがとうございます。政界の奇跡ですね。この奇跡を実現してくれたのは、小泉を支持してくれた国民のみなさんだと思います」と述べた。さらに「これから立派な民営会社になってもらうように、さらに頑張っていくかなければならないと思っています」と述べた。この模様は翌15日に放送された。